

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

道の駅「来夢とごうち」を核とした観光拠点形成事業

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

広島県安芸太田町

### 3 地域再生計画の区域

広島県安芸太田町の全域

### 4 地域再生計画の目標

#### 4-1 地方創生の実現における構造的な課題

##### ①人口減少と少子高齢化

2004年（平成16年）10月の新町発足時、8,784人の人口は、2023年（令和5年）12月末には5,549人と、3,235人が減少するなど、その減少傾向に歯止めがかからず、また、高齢化率は2023年（令和5年）12月末時点で52.2%と県内最高となっており、広島県内で最も少子高齢化、人口減少が顕著に表れている。人口構成をみると、29歳以下の減少率は65%を超えており、若者の流出が顕著に現れている。この主な原因は、新卒者が就職先を都市部に求めていることに加え、結婚出産世代が減少し続けたことによるものであると考えられる。新卒を迎える16～18歳を対象としたアンケート結果によると、本町に「住み続けることを希望する者」の50%以上が「自然環境や景観の良さ」を挙げ、一方で、「住み続けることを希望しない者」の過半数が「働く場所や仕事がないから」、「交通や買い物が不便だから」を挙げている。従って、自然資源の魅力を効果的に発信することにより関係人口の増加に寄与するだけでなく、本町の観光・産業の原動力となり所得向上及び雇用創出につなげ、結婚出産世代の需要に応えることにより、減少率が著しい若者へ刺激を与え、本町に住み続けたいと思わせるための仕組みづくりが必要である。

##### ②観光分野の課題

2004年（平成16年）に約2,375百万円であった観光消費額は、2023年（令和5年）では1,194百万円と、ほぼ半減となっている状況である。特に、観光客の消費動向に密接に関係する宿泊業、飲食サービス業の売上額は50%超の減少、付加価値額は80%超の減少となっており、観光消費額が低調である。これには、広島市安佐北区から三段峡間を結び、本町を横断する形で整備されていた本町の唯一の鉄道であった旧JR可部線が、2003年（平成15年）に廃線となったことが大きく影響していると考えられる。JR可部線が稼働していた当時、本町には13駅があり、山々や河川の景観を眺めながら町内各地を訪れるなど、本町への観光の主要な移動手段となっていた。これが失われたことにより、広島市から本町までのアクセスに大きな影響を与え、町内各地への周遊や交流機会が次第に失われていき、観光消費額の減少傾向を解決する打開策がないまま現在に至っている。

また、従来の情報発信は、観光パンフレットやチラシ、Webサイトによるものが主流であったが、本町の観光案内所は、道の駅とやや離れた場所に位置しており、高速道路を降りて本町に来る来訪者の多くが観光案内所を認知できず、観光資源の魅力が伝えられていないという課題もある。来訪者に対し、効率よく効果的に情報発信を行う必要があるが、近年スマートフォンやSNS等の情報伝達手段が発展し観光客のニーズが多様化する中で、デジタルやアナログ共に本町の持つ地域資源の魅力を付加価値として観光客に届けられていない状況となっている。

加えて、観光地同士の連携が乏しく、周遊を促す仕組みができていない。特別名勝「三段峡」や町内に点在するキャンプ場・グランピング施設などをつなぎ、周遊エリアとして情報発信ができていないため、観光を促す発信が分散されている。それぞれの観光地には一定の集客があるにもかかわらず、「安芸太田町には立ち寄っただけ」になってしまっており、時期、旬な情報、顧客動向等を考慮し周遊エリアとしての認知度を高めるための工夫が必要である。そうした町全体を巻き込んだ情報発信により、安芸太田町で食事や宿泊、お土産や体験する人を一人でも多くし、観光消費額を向上させ、再訪を促す循環を構築する必要がある。

### ③道の駅が抱える課題

道の駅の売上が約2億7千万円、来場者数が約10万人弱と低調で、かつ顧客動向等の数値による分析が効果的にできていない。現在はアンケートによる調査方法しかなく、また、調査後には膨大なデータを統計情報として残すために多大な時間と労力を要することから、手探りで道の駅に関する情報発信や誘客を行っているのが実態である。本町の玄関口にあり、観光情報をはじめ物販、飲食、交通等の機能が集まり、町内外から多くの集客を見込む道の駅において、顧客情報を効果的に分析しニーズに合った施策を展開することで、関わる事業者の所得向上に効果的につなげ、観光消費額の増進を図る必要がある。

また、現状の道の駅は、構内を回遊する際に道路横断を要するため、安全性での課題も抱えている。設立当時において、旧戸河内町インフォメーションセンターとして整備された後、周辺道路の形を保持したまま用地確保とともに駐車場、農産物直売所、遊具施設、バス停等を段階的に追加してきた経緯から、各機能が分散した配置となっている。そのため、利用客は雨風当たる屋外の徒歩移動を必要以上に要し、トイレや買い物・観光情報を得て、駐車場に戻るまでの動線において来訪者の満足度が得られないことがアンケート調査から判明している。さらには、物販や観光情報の提供を行う駅舎の老朽化が進み、雨漏りや電気設備の故障が複数箇所発生しているため来訪者の居心地の悪化を招いており、雨天時の来訪者が極端に減るなど、道の駅の観光客数は伸び悩んでいる状況である。

計画時に情報発信拠点として検討されたことにより、子育て世代や働く世代が日常的に集えるスペースが整備されていない。現状の道の駅では物販コーナー以外に、簡素な情報提供カウンターや狭小な休憩スペースしかなく、子育て世代や働く世代へ焦点を当てた地域支援機能が盛り込まれていない。それにより、高速道路を使用する方のみが活用できる施設という印象になっている現状である。令和4年度に、道の駅再整備で希望する施設やサービスについてアンケート調査を行ったところ、「子どもの遊び場（キッズスペースなど）」と答えた方は16.8%、「Wi-Fi等のできる休憩スペースやフリースペースがある」、「リモートワーク・テレワークができる」と答えた方は10.1%と一定のニーズが存在していることが分かっている。観光客以外にも、子育て世代や働く世代の町民に対しても、複数回の来訪を促すことのできる施設を整備する必要がある。

### ④農業分野

2023年度（令和5年度）の総農家数は653戸と減少傾向で、高齢化率は85%を超えている状況である。本町では、減少する農家に対応した農地集約を行っているが耕作放棄地は増加しており、農家戸数の減少、高齢化、さらには鳥獣被害の増加に伴う生産意欲の減退などに歯止めがかかっていない。そこで、本町では、大量生産が困難である状況を逆手にとり、他の一般的な農産物よりも高い付加価値を持つ地元産品のブランド化に向けて取り組んでいる。

本町の特産品である祇園坊柿が2024年（令和6）に広島市により「ザ・広島ブランド」に認定されているが、まだまだ認知度は低く、本町のブランド力を高めるに至っていない。地元ブランドの認知を拡大し、他の競合農産物との差別化を促進する必要があるが、有効なプロモーションが打てていない状況である。広大な農地の確保が難しく、少量多品目の農産物を生産する本町の農業を発展させるため、祇園坊柿の効果的なプロモーションを行いブランド化の確立をするとともに、他の産品の高付加価値化も求められている。それによって、新規就農や6次産業化に繋げていきたい。

## 4-2 地方創生として目指す将来像

### 【概要】

#### 【町全体の概要と、町全体で目指す将来像】

安芸太田町は、広島県の北西部に位置し、山県郡の一部を構成する人口5,449人（2024年5月31日現在）の町である。地域の大部分が森林であり、恐羅漢山や三段峡をはじめ、千m級の山々に囲まれ、西中国山地国定公園など豊かな自然環境に恵まれた地域であり、山岳、溪谷の地形で平地が少ない。交通条件をみると、中国自動車道戸河内ICが地域の玄関口となり、山陽山陰間における交通の結節点に位置している。さらに、政令指定都市の広島市に隣接し、広島市中心部から高速道路を利用して1時間以内でアクセスできるため、ほどよい利便性を有しており、観光エリアとして都市部からの来訪が多い地域である。

本町では、広島市近郊にある特徴を活かし、2020年（令和2年）に、第2期安芸太田町まち・ひと・しごと創生総合戦略（安芸太田町人口ビジョン（改訂版））を策定し、将来像である「豊かさあふれ つながりひろがる 安芸太田 ～ほどほど便利 とびきり幸せ 笑顔かがやく里山のまち～」の実現に向け、都市部等との‘商い’の活発化と町内産業間連携を推進するために、地域資源を活用した「儲ける地域」の創造をめざすこととしている。その中で、町内の生産者、加工事業者、販売事業者等のネットワークを構築し、地域経済の仕組みを整えるとともに、戸河内ICから下りて200m以内の距離にある、言わば町の玄関口に位置する道の駅「来夢とごうち」を、交流と観光の拠点と位置付け、人が集い、町内外に向けて広範囲な周遊を可能とすることによって、地域の活性化を図ることとしている。

#### 【観光振興の概要と、観光振興として目指す将来像】

本町は、特別名勝「三段峡」や、スキー場を有する県内最高峰「恐羅漢山」、国内第2位の高低差を有する「温井ダム」などの自然環境やインフラに恵まれた地域であり、これらを舞台とした体験や森林セラピーなど、多くの観光資源が存在する。そのほか、近年のキャンプブームに感化され、町内のキャンプ場やグランピング施設等は常時にぎわっており、そうした来訪をきっかけに、本町では、これらの資源を活用し、町内の事業者や起業家の「儲ける力」を促進し、交流人口を図る取組みを推進している。

2023年（令和5年）の本町の観光客数は年間約62万人、主要観光地別では、三段峡に約11万人、恐羅漢山に約12万人、温井ダムに約9万人が訪れている。また、近隣自治体からは、広島市の広島平和記念公園を經由して年間約600人、廿日市市の宮島を經由して年間約350人が訪れている。主には広島市から年間約35万人が訪れ、本町にある中国自動車道の戸河内ICから来町している。

集客を促す観光資源のほかに、近年では、温井ダム周辺エリアで、民間事業者等が中心となり、ダム湖面を活用したSUPやウェイクサーフィン等のウォータースポーツアクティビティを基軸とした誘客を促す取組みが活発になってきている。今後、情報発信の強化、受入環境の整備、誘客イベント開催等を通して、同エリアの魅力増進につなげることも計画している。このような中、「温井ダム」が国土交通省の「インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト」に中国地方で初めて選定されたことも追い風となり、周辺地域と連携した持続可能な観光コンテンツ造成等を通して、さらなる活性化が期待されている。

また、2022年（令和4年）には、本町の神楽振興の新たな推進母体として、「安芸太田町神楽協議会」を設立した。情報発信や上演機会の提供等を通して、町内15団体の活動支援を行っているところである。神楽は、町内各地において収穫を祝う秋祭りで各神社で夜を徹して奉納されるなど、古くから地域住民の生活や暮らしに根差してきた。神楽の魅力は地域の粋を超え、町内外との地域間交流や本町の観光価値を高めるための重要な地域資源である。

このように町内の地域資源を中心とする観光関連事業者や地域の取組みが活発化し、町内各地へ波及するなかで、町全体で観光振興の気運が高まっている。

#### 【道の駅の現状、地域商社あきおたの内容】

道の駅「来夢とごうち」は、中国自動車道戸河内ICから約200mという好立地に位置しており、山陽自動車道や浜田自動車道、岡山自動車道といった主要道路との良好なアクセスにより広島県内外から訪れやすい場所となっている。本施設は高速道路からのETC2.0搭載車の一時退出を可能とする「賢い料金」の対象の道の駅であり、中国自動車道戸河内ICの前後20km以内にサービスエリアがないことや、本施設の周辺約22km圏内に大型ショッピングセンター等がないことから、観光客や一般客に親しまれている場所である。

本施設の駅舎は、1993年度（平成5年度）に、広域的な情報発信基地の役割を担う旧戸河内インフォメーションセンターとして整備し、1995年度（平成7年度）に道の駅「来夢とごうち」として供用を開始した。その後、1998年度（平成10年度）から2009年度（平成21年度）にかけて、地元事業者が本格的な開業の前に試験的な開業ができるチャレンジショップ、遊具施設、農産物直売所、バス待合所等を順次整備してきた経緯がある。

本館には情報提供コーナー、物販施設、レストラン、花屋があり、本町の特産品である祇園坊柿の関連商品をはじめ、広島県指定伝統的工芸品「戸河内刳物」などの工芸品、名物「漬物焼きそば」などを提供している。その他、むすび弁当、麺類、団子等を提供するチャレンジショップ、地元農産物の直売所、広島市と島根県益田市を結ぶ高速バスや町内路線バスが利用できるバス停などがあり、週末を中心に多くの観光客が訪れる施設である。

第2期安芸太田町まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2年3月）において、「道の駅来夢とごうち」を中心として、町内の生産者、加工事業者、販売事業者等のネットワークを構築

し、経済循環の仕組みを整える」としており、「本施設を交流と観光の拠点として、人が集い、町内外に向けて広範囲な周遊を可能とすることによって、地域の活性化を図る存在」として位置付けている。

道の駅周辺部の集客は、スマートフォン端末の位置情報による分析ツール「おでかけウォッチャー」によると、年間30万人程度の集客があると推定しており、全体で年間約2.7億円の売上がある施設である。

一方、人口減少・高齢化が進行し、小規模事業者数が農業従事者の9割以上を占める本町において、交流人口や関係人口拡大を通して、地域の稼ぐ力の向上が急務であったことから、2017年度（平成29年度）に、規模・広域性・多業種性を満たす事業者として、（一社）地域商社あきおおたを設立した。その事業は現在、道の駅運営をはじめ、体験型観光、田舎体験、特産品開発、定住対策など多岐にわたる。2021年度（令和3年度）には、観光庁の登録観光地域づくり法人「地域DMO」に登録され、地域資源の活用による魅力ある観光地づくりや、インバウンド受入体制の整備等の取組みが活発になっている。地域商社あきおおたが新生道の駅と連携することにより、地域資源や地元製品の作り手と顧客をつなぎ、ヒト、モノの流れを加速し、地域経済の活性化をもたらすことが期待できる。

#### 【数値目標】

K P I ①	安芸太田町の観光消費額						単位	円
	事業開始前 (現時点)	2024年度 増加分 (1年目)	2025年度 増加分 (2年目)	2026年度 増加分 (3年目)	2027年度 増加分 (4年目)	2028年度 増加分 (5年目)	K P I 増加分 の累計	
K P I ②	安芸太田町の観光客数						単位	人
K P I ③	道の駅「来夢とごうち」の利用者数						単位	人
K P I ④	道の駅「来夢とごうち」の売上高						単位	円
K P I ①	1,194,089,000.00	0.00	0.00	0.00	42,687,225.00	61,838,811.00	104,526,036.00	
K P I ②	625,700.00	0.00	0.00	0.00	22,368.00	32,403.00	54,771.00	
K P I ③	300,000.00	0.00	0.00	0.00	93,842.00	19,692.00	113,534.00	
K P I ④	265,000,000.00	0.00	0.00	0.00	128,841,975.00	19,692,099.00	148,534,074.00	

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

5-2の③及び5-3のとおり。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

#### ○ 地方創生拠点整備タイプ（内閣府）：【A3016】

##### ① 事業主体

2に同じ。

##### ② 事業の名称

道の駅「来夢とごうち」を核とした観光拠点形成事業

##### ③ 事業の内容

###### 【事業の概要】

中国自動車道の戸河内IC出口から200mの好立地を活かし、「道の駅来夢とごうち再整備基本計画」（2023年（令和5年）4月）に基づき、食、特産品、情報を柱とするサービスを提供する場を再整備し、観光客数及び観光消費額の増加を図るものである。観光客に対しての情報発信拠点や、農産物や加工品の販売・飲食施設として本町の本町の観光及び産業振興を推進する施設として機能し、将来的に若者を含めた関係人口創出及び転出抑制等に寄与することを目指す。

###### 【施設の概要】

###### 駅舎

- (1) 施設名称 道の駅「来夢とごうち」
- (2) 施設所在地 広島県山県郡安芸太田町大字上殿地内
- (3) 敷地面積 約27,900㎡
- (4) 建築面積 1,969.22㎡
- (5) 施設構造 S造1階
- (6) 施設の機能（従来より新設した機能を★で記載）
  - ① 観光案内所・情報提供施設・会議室
  - ② 飲食施設（フードコート）・チャレンジショップ
  - ③ コワーキングスペース ★
  - ④ 特産品・加工品販売所
  - ⑤ 農産物直売所
  - ⑥ 子育て支援スペース ★
  - ⑦ トイレ
  - ⑧ 事務所・機械室
  - ⑨ 金融窓口
  - ⑩ コインランドリー・コインシャワー ★
  - ⑪ レンタサイクル・カーシェアリングサービス
  - ⑫ バックヤード

###### (7) 屋外施設の機能

- ① 遊具施設（わくわくランド）
- ② 人工芝広場（わくわくフィールド） ★
- ③ イベント広場 ★
- ④ 駐車場（乗用車・自動二輪・自転車・大型車）
- ⑤ RVパーク ★
- ⑥ バス停留所
- ⑦ 公園・ドッグラン ★

#### 【整備内容及び活用方法】

- ・駅舎内は、観光案内所・情報提供施設・会議室、飲食施設、特産品・加工品販売所・農産物直売所を連続的に配置することにより、利用者の回遊性を高め、誘客の相乗効果を図る。また、平日は交流の場として日常的な町民利用を促す。
- ・施設前面に整備するチャレンジショップ6棟が来訪者のアイキャッチの役割となり施設へ誘導する。
- ・駅舎内に、飲食スペースと連続して、Wi-Fiや電源環境を備えるコワーキングスペースを新設する。これにより、様々な仕事・学習スタイルやニーズに応える環境整備を通して施設利用を促進する。
- ・「遊ぶ・休む・見守る」が一体的に行える子育て支援スペースを新設することにより、子どもや親にとって魅力的な遊び場・休息の場とする。また、乳幼児も安心して遊べるキッズルームも備える。さらに、24時間エリアに授乳室には調乳用給湯器や鏡の設置しオムツ交換台を設置する。
- ・本施設が戸河内ICを介したETC2.0による「賢い料金」制度の一時退出実験対象の道の駅である利点を活かし、長距離移動の中継地点としての利用価値を高めるため、24時間利用可能なコインシャワーとコインランドリーを新設する。
- ・車中泊環境を求める観光客の需要に応えるため、RVパークを新設し、電源設備を備えるほか、折り畳みテーブル等の使用を想定し余裕のある区画面積とする。近隣にある宿泊・入浴施設「グリーンスパつつが」と連携し、入浴機能も確保することで、さらに利便性を向上させる。
- ・人工芝広場（わくわくフィールド）を新設し、幅広い世代の体力向上やスポーツを通じた教育プログラム等の開催により、地域や近隣の子どもとの交流を図る。
- ・駅舎の軒下空間と連続して広場を整備し、キッチンカーが乗り入れやすく、天候に左右されにくい使い方ができる計画とする。農産物直売所や飲食施設に隣接して設けることで、食をテーマにしたイベントの展開を容易にする。
- ・河川敷の桜の木が立ち並ぶ公園内にドッグランを新設し、行楽シーズンによらず愛犬家が立ち寄る場所とする。また、本町のお花見スポットとして誘導し賑わいを創出する。
- ・エントランス正面に大型デジタルサイネージを設け、町内各地の魅力的な景観を大迫力で発信する。
- ・会議室は、不定期に町民向けに無料開放し、ランチミーティング等に活用してもらう機会を設定する。子ども会や婦人会の利用も想定し、町内団体に向けて施設を手軽に利用するきっかけや利便性に貢献する。

#### 【PFI事業者及び地域商社あきおおたと連携して行う内容】

本施設の整備にあたっては、官民連携により、本町の財政低減を図りつつ維持管理や運営面を見据えた設計・建設によるランニングコスト縮減や顧客価値の最大化、事業期間を通じた確実な維持管理体制、経営戦略やマーケティング手法を用いた運営等の民間ノウハウを最大限に発揮できる事業手法として、PFI方式を採用する。選定されたPFI事業者が施設整備を行い、指定管理者として維持管理運営を行う。一方、本町の地域DMOである地域商社あきおおたは、地元事業者や地域資源とのつながりに強みを持つため、道の駅の観光案内所・情報提供施設、特産品・加工品販売所の運営を行う。さらなる交流人口拡大のため、県内外へ情報発信を行い、町内の観光の魅力や特産品の魅力を伝えると同時に、ホームページの一元化、SNSの共同運営、情報発信力の強化、リピーター獲得のための会員制度の導入、スタンプラリー企画等の取組を連携して行うこととしている。

#### ④ 事業が先導的であると認められる理由

##### 【自立性】

整備後の施設規模の拡大に伴い維持管理・運營業務費の増加により、事業経費は、従来の3,828千円から65,510千円へと大幅に増加することを想定している。

供用開始後、当初は事業収益と一般財源により賄う事を想定しているが、その後、徐々に収益力を高めると同時に一般財源を減らしていくことを計画している。

まずは供用開始年度がポイントとなるが、県内外の集客施設を広く手がけるPFI事業者によるテナント賃料設定を踏まえた事業展開になっているため、無理のない収支計画になっている。

また、供用開始後は、年間5%の売上増加率を見込んでいるが、近隣自治体の道の駅リニューアル後3年間の同増加率20%に対して余裕度ある設定であることから実現性は高いと考えている。また、この計画に基づくと、供用開始後7年目には、一般財源措置が整備前比で半減することを想定しており、自走に大きく寄与するものと考えている。

本事業は施設の収益力が事業継続の肝となることから、PFI事業を通して民間の創意工夫を発揮し、魅力的な施設を提供し続けるため、本町が設定する要求水準を達成するだけでなく、定期的に本町によるモニタリングや関係者協議会を実施することにより、事業実施状況を関係者で共有する。

詳細は別表1～3を参照。

##### 【官民協働】

###### 【行政の役割】

- ・発注者となり公共事業を実施する。
- ・町公式サイトやSNS等を利用して、観光周遊や消費を促すための情報発信や地域通貨moricaを活用した観光振興事業を行う。
- ・道の駅再整備と合わせて、当該施設が町内各地とつなぐハブ拠点として機能し、経済効果が町内へ波及するよう、主要道路である国道191号、186号を中心として、来訪者を町内観光地、観光施設等へ誘導するための案内標識を再整備する。当該標識においては、ピクトグラムの併記や町のイメージカラーをもとにデザインを統一するなど、町内ブランド化及び認知度向上に貢献するだけでなく、インバウンドを含め、誰もがわかりやすく、迷うことなく目的地へ到着できるようにし、安心して町内周遊を促す環境づくりを行う。
- ・旧町村の枠の中で伝統的に開催されてきた集客イベントが根付いている本町において、新生道の駅「来夢とごうち」を舞台として、町主催イベントとしては最大級の集客を見込む「安芸太田まつり（仮称）」を創設し、年に1回、来訪客へ本町の特産品、農産物、食等のPRを行うことにより、本町の認知度向上及び安芸太田ファンの獲得を強力に推進する。
- ・道の駅店舗で地域通貨moricaの利用を推進し、買い物時のキャッシュレス化による利便性向上及びポイント付与等によるインセンティブにより、道の駅利用はもとより町内店舗の利用を促進し、町内の経済波及効果を促す。
- ・事業期間中に、施設・設備の不具合の発生や、PFI事業者の財務状況の悪化等の事態が発生することを未然に防ぎ、公共サービスの水準が維持されているか本町で監視し、不具合が生じた場合は適切な処置をとる。

###### 【PFI事業者（指定管理者）の役割】

- ・行政の取組に呼応し、PFI事業者（指定管理者）による効率的な建設や維持管理運営を行うだけでなく、施設運営を見据えたBTO方式による再整備を行い、顧客の増加や各事業者の収入に繋がる施策の企画・運営を積極的に行う。
- ・道の駅の魅力化につながるコンテンツを提供するとともに、道の駅の魅力化のため、顧客マネジメント（CRM）とPOSレジの統合システムを導入することにより、消費活動や顧客属性により品揃えや陳列等にフィードバックするなど、観光客の需要に応えるとともに、無人化、省力化に貢献する。
- ・クラウドサーバーを利用し、情報連携システムを構築する。事業者、地域商社、町等で維持管理運営上の課題や経営状況、観光客の動向等をいつでも、どこでも共有することを可能とする。

###### 【（一社）地域商社あきおおたの役割】

- ・町内最大級の商社機能を持ち、道の駅「来夢とごうち」において、特産品・加工品販売所、農産物直売所を運営する。事業者との連携により地域産品の消費を促すことにより、地域内産業が発展し、地域が稼ぐ力を醸成する。
- ・道の駅の観光案内所・情報提供施設を運営するとともに、地域DMOとして、町内事業者等で構成される部会を通して地域資源の掘り起こし、地域資源を消費者へつなぎ、町の観光地域づくりの中心的役割を担う。そのほか食のイベントや特産品のPR動画をデジタルサイネージで流し、この商品が施設内で販売されていることを説明する。また、観光客の需要に応じた多種多様な周遊コースの設定や観光体験の見どころを、自身の体験とともに説明する観光コンシェルジュとして顧客目線での情報発信も行う。

#### 【株式会社恐羅漢】

冬季において、本町のスキー場「恐羅漢スノーパーク」を結ぶ公共交通手段がないため、スキー場を運営する株式会社恐羅漢と連携し、同社が運行するシャトルバスが道の駅のバス停に乗り入れることを可能とする。これにより、広島市からバスで訪れる観光客への間口を広げ、恐羅漢スノーパークへのアクセス性が向上することにより、観光消費額の増加に寄与する。また、道の駅が経由地になることで、観光客が道の駅での買い物や食事をすなどの消費効果が期待される。

#### 【広島電鉄・石見交通・三段峡交通・安野タクシー・加計交通】

本施設に高速バスの停留所を設置し、高速バス業者である広島電鉄・石見交通とタイアップし、観光地を訪れた観光客に道の駅で使える割引券や商品券を配るなどにより、観光地と道の駅の観光動線を促す。そのほか高速バスを組合わせた観光ツアーの際に、道の駅を経由するよう公共交通事業者との協力体制を構築する。

また、本施設にはタクシー車寄せを整備する予定であるため、従来よりタクシーでの訪問の際の利便性が向上する。タクシー会社にも、本町の観光発信拠点としての道の駅の周知の協力を促し、来訪者の増加に繋げる。

#### 【ダイハツ工業株式会社】

ダイハツ工業株式会社と連携しカーシェアリングサービスを提供することにより、観光客が好きな時に車を借りて自由に移動することが可能になる。公共交通網が行き届かない場所までの移動を補完する手段として機能し、観光周遊の2次交通としての選択肢を広げ、地域観光の促進につながる。また、地域住民に対しては、道の駅駅舎内の余剰スペースや共用部を利用して専用ブース等を設置し、カーシェアリングサービスのメリットやアプリ登録を促す機会を創出し、自家用車を所有しない地域住民の移動の選択肢を広げ、暮らしの利便性に貢献する。

#### 【農産物生産者】

これまでの道の駅では販売場所が狭く、限られた種類しか店頭に並べ替えなかった、米やとうもろこし、祇園坊柿等の新鮮な農産物や加工品を豊富に本施設の直売所で販売し、来訪者の購買意欲の向上に繋げ、継続した売上を目指す。また直売所で売れ残った農産物、食材の状況を、クラウド上の情報共有システムでリアルタイムに飲食店舗と共有することで、これまで廃棄していた野菜等を、料理として活用する循環を構築し、フードロス抑制とともに農業従事者の所得向上に貢献する。

#### 【広島市農業協同組合】

広島市農業協同組合と連携し、地域住民や町内事業者へ金融サービスを提供する。同組合が町内の農業従事者への資金提供を通して、農業経営の安定化を支援する。また、従来より広くなった道の駅駅舎内の余剰スペースや共用部を利用して、同組合が専用ブースを設置できるようにし、営農指導やローン、法律無料相談、葬祭場の相談などを通して、農業従事者や地域住民の課題解決に貢献し、農業振興や町民の安心した暮らしに貢献する。

#### 【レストラン来夢・おふくろ弁当もみじ・味彩紀行・テイクアウトのお店やすらぎ・だんご屋高丸商店・恐羅漢バーガー・安芸乃国酒造・いわみ】

客と店員が対面で会話をしながら、店舗の前で煙が立つ中で焼き鳥や団子を提供するなど、本施設ならではのライブ感を演出することにより、賑わい創出と消費を促し、安芸太田町のファン獲得に貢献する。

さらに、期間限定で、飲食店舗が協力したラリーイベントを開催し、集めた個数に応じて景品がもらえるイベントや、利用者が減少する雨や雪の日には、利用者に対して割引サービスの提供や、次回使えるサービス券の配布などのキャンペーン企画を実施することにより、飲食店舗の利用促進及び誘客の水準化を図る。

## 【地域間連携】

### 【広島広域都市圏】

広島市の都心部を中心とする広島県、山口県及び島根県の3県にまたがる30市町で「広島広域都市圏」を形成し、圏域の一体的な発展に向けた交流・連携を推進している。広島市を拠点とする広域観光エリアにおいて、外国人旅行者が安心して快適に移動・滞在・観光することができるように、ニーズの高い無料公衆無線LAN環境（HIROSHIMA FREE Wi-Fi）の整備に取り組んでいる。道の駅「来夢とごうち」においても、当該Wi-Fi環境を整備し、圏域を訪れる外国人旅行者の増加や圏域内における周遊・滞在の促進を図り、旅行者の動向を把握・分析することで、より効果的な施策展開につなげることができる。また、広島広域都市圏の情報発信を行うことで、誘客や周遊を図り、圏域内の地域資源や地域産業が付加価値を生み続ける、経済活力とにぎわいに満ちた都市圏に寄与する。

### 【広島県・北広島町】

2016年（平成28年）より、本町と北広島町が中心となり、近年増加するサイクリストの需要に応えるため、サイクリング環境を整え、交通安全と地域活性化を目的として「やまがたサイクルツーリズム推進協議会」を設立し活動を行っている。両町で構成する山県郡は、西中国山地の山々を望みながら交通量の比較的少ないロード、高低差のある山岳ロードが特徴的であり、ビギナーからプロチームのトレーニングコースにもなる、走りごたえのあるエリアとして認知されつつあり、道の駅「来夢とごうち」は当該エリアの周遊コースの発着地として設定している。また、当該道の駅は、広島県の「ひろしまサイクルおもてなしスポット」に登録されており、快適なサイクリングをサポートする施設として、町内外から多くのサイクリスト呼び込むとともに、県北における周遊の発着点として認知度を高め、飲食や宿泊業を中心とした滞在や交流による広域的な消費活動増進による地域活性化を促すことに貢献する。

### 【北広島町・安芸高田市】

2023年度（令和5年度）より、広島県の県北に伝わる芸北神楽の保存と振興を図り、地域振興に寄与することを目的として安芸高田市、北広島町、本町の3自治体の神楽協議会で構成される「ひろしま芸北神楽協議会連携会議」発足により連携体制を構築している。中国自動車道を介した良好なアクセスにより広島市といった近隣の都市部を中心として県内外からの多くの誘客を見込む道の駅「来夢とごうち」において、芸北神楽の上演機会を提供するだけでなく、近年急増しているインバウンドを含めた観光客を対象とした衣装体験等の付加価値を提供することにより、本町の枠を超えた伝統芸能の伝承・発展に貢献する。

### 【広島市】

広島市と本町を結んでいた旧JR可部線の廃線に伴い、広島市からのアクセス性が悪化したことが、観光客や様々な交流機会の減少の大きな要因となっている。このデメリットを補う新たな誘客施策として、広島市の企業や学校を対象として、研修・教育会場、あるいは遠足、修学旅行等の経由地として、広島市中心部から1時間以内でアクセスでき、豊かな自然資源に囲まれた道の駅「来夢とごうち」をPRし、再整備後に団体の受入を本格化する。

### 【広島県廿日市市】

広島県廿日市市の山間部にある道の駅「スパ羅漢」は、日帰り温泉施設が好評で隠れ家的な道の駅として人気であるが、スマートフォン端末の位置情報を用いた観光客の動向を分析すると、当該施設を経由して年間数千人規模で道の駅「来夢とごうち」へ周遊される施設となっている。このメリットを活かし、特産品や加工品、食の交流や、周遊マップを整備することにより、相乗効果により互いの施設が発展する仕組みづくりを行う。

### 【島根県大田市】

山陰、山陽の結節点にある道の駅「来夢とごうち」において、地域DMOである（一社）地域商社あきおおたが島根県大田市の事業者と連携し、定期的開催するマルシェにおいて、山間部に位置する本町には珍しい海の幸の提供を行うことにより、商品の品揃えを補い、顧客満足度を高め、リピーターを獲得することに貢献する。また本マルシェで知った商品を山陰まで買い求めることによる消費活動の相乗効果も期待できる。

## 【政策・施策間連携】

### 【関係人口創出】

道路利用者の休憩施設としての役割を担うだけでなく、物販、飲食施設等の地域振興施設や子育て支援施設等の整備を通して、町民を含む施設利用者の利便性向上を図るだけでなく、CRMを活用した顧客ニーズに基づき、都市部住民等に対する本町の自然資源や特産品、食などの魅力を印象づけるブランド化やイメージ戦略等の情報発信を継続・強化する。その結果、シビックプライド醸成はもとより、関係人口を増加させ移住定住を促すことにより、本町の人口減少を抑制する効果が期待できる。

### 【小規模農家支援】

整備後に農産物直売所の販売面積が4倍となり、多くの農産物を扱うことを計画している。これを契機に、SNS等の情報発信手段を活用し、多くの小規模農家が参加できる「道の駅マルシェ」や「安芸太田祭り（仮称）」を開催し、新規就農者がお試しで販売する機会を創出する。また、地域DMOである地域商社あきおおたがコーディネート役となり、農業従事者や加工事業者が連携し、本町ならではの新商品の開発やブランド化を支援する。これにより農産物や加工品に付加価値を与え、6次産業化を推進する。

### 【子育て支援】

子育て世代が訪れ、「遊ぶ・休む・見守る」が一体的に行える子育て支援スペース及びキッズスペースを整備する。また、施設を活用して「子どもの体力づくり」をテーマに、自宅よりも楽しく気軽に体を動かせるスポーツイベントを実施する。イベント中のやり取りをすべて英語で行い、教育と運動を融合させることで、子どもの力を最大限伸ばすことに貢献する。

さらに、本町で農業体験や家業体験などの教育旅行の受入れを推進する中で、生徒と受入家族との対面式・お別れ式の会場として道の駅を設定することができる。大型のデジタルサイネージで「歓迎・おもてなし」を表現することにより、子ども達に感動や思い出づくりに貢献し、将来的な本町への再来訪を促す。

### 【地域通貨morica利用促進】

道の駅で本町の地域通貨moricaを利用できることを要求水準としており、物販施設での買い物、飲食、地域情報サービス、乗り合いタクシーの利用等をワンストップで行える本施設がキャッシュレス化の牽引役となり、将来的なデジタル社会形成に貢献する。また、moricaとCRM統合システムとの連携により、顧客の消費動向をデータとして積み上げ、顧客分析に基づいた消費促進策への展開を可能にする。

さらに、moricaの普及は、買い物の利便性向上や乗り合いタクシーの利用のしやすさに直結することから、高齢化が進む本町において、moricaを利用した暮らしのイメージを提案することにより、高齢者の活動量の増加や交流機会の創出に寄与し、孤独感の軽減や生きがいづくりに貢献する。

### 【地域公共交通】

町内各地域で高齢者や交通弱者の移動手段の維持、確保がますます大きな課題となっている。そこで、高速バス、路線バス、乗合いタクシー、レンタサイクル、カーシェアリングサービスといった交通手段の集約地として、デジタルサイネージやチラシ、ポスターによる情報発信や、町民向けの体験イベントの開催を通して、本町の交通の利便性や快適性について意識醸成を図り、住民の豊かな暮らしに貢献する。

体験イベントは、2024年度（令和6年度）から運行を開始したデマンド型乗り合いタクシー「もりカー」の予約、利用、moricaでのキャッシュレス決済までの一連の流れについて、実車を用いて理解を深めることを想定する。

### 【防災】

自然災害発生により国道186号、191号等の主要道路が通行止めになった場合の代替経路が乏しいため、車両滞留を生じやすく、長時間車内で待機することにより健康被害を誘発するなどの二次被害が懸念される。従って、年間を通して稼働する道の駅は、防災の観点でも重要な施設として位置付けており、災害時には大空間の飲食スペースや会議室、子育て支援スペース等を開放し、災害情報をデジタルサイネージで情報提供するなど、道路利用者の一時待避施設とすることを計画している。また、施設内に非常用電源を備えるほか、備蓄倉庫内に災害グッズや非常食の必要量を確保することにより、停電時においても3日間の施設利用を可能とする。

### 【神楽文化の伝承】

多くの利用者を見込む道の駅においては、屋外広場を活用して神楽イベントを開催するなど町内15団体を含む神楽団体の出演機会を広く提供する。また、駅舎内においては、神楽の衣装、面、道具等を展示した内装の設えとともに町内外の神楽イベント情報や、神楽団体の活動情報を提供するスペースを設置することにより、神楽を通じた交流人口の創出及び滞在による経済効果を促す。その結果、高齢化や担い手不足が進む神楽団体の活力を促し、本町の伝統芸能を伝承し発展へつなげる。

### 【柔軟な働き方への寄与】

コワーキングスペースは、働き方の柔軟性や改革を求める人、或いは自己実現を求める人にとって有意義な場所であり、個人、企業等や専門知識を持つ人が集まり、共同作業する機会を創出することができる。個人の知識やスキル向上につながる当該スペースを町民が有効利用することで、個人や地域社会の発展を支援し、活気ある安芸太田町を実現する。利用を啓発する取り組みとして、初めてのコワーキングスペース参加者を無料で招待したり、月1回フリードリンク制で来訪を促すイベントの開催などが考えられ、多様な交流や協働を生み、若者の居心地の良さをアピールする。

### 【起業・創業支援、子ども就業体験機会の創出】

地元の加計高校を対象として、地域起業家の育成プログラムの一環で、生徒自身が本施設での物販活動や市場調査、接客、高校生マルシェの開催等のイベントプロデュースを行う機会を提供する。高校生目線で新商品開発を通して、流行りに敏感な若年層に人気の商品が創出される効果も期待される。また、CRMシステムによる顧客動向分析や、POSレジシステムによる売上情報のリアルタイム把握などの最新技術を通じて就業の学び場となり、将来的に創業を志す学生の実行力を養う。

### 【地域コミュニティ活性化】

自治会や子ども会、婦人会による道の駅の利用を促進し、健康づくりや地域活動、交流機会を創出する場とする。平日の住民利用が高まる時間帯にデジタルサイネージ等により啓発することに加えて、SNSやホームページ等の媒体を駆使して地域団体等へ情報提供し施設活用を促すことにより、地域の活力増進に寄与し、本町の生き生きとした共生社会を育むことに貢献する。

### 【ヘルスツーリズム推進】

本町は、観光と健康増進の価値を組合わせたヘルスツーリズムを推進し、交流人口・関係人口を増やす取組みを推進している。アウトドア志向を持つ観光客や、健康経営に取り組む企業に対して、本施設を町内4つのセラピー体験会場へ向かう際のハブとして訴求することにより、来訪客の様々な需要に応え交流人口拡大を図る。また、北広島町と本町が連携して整備しているサイクリング周遊コースの発着地に設定されているため、サイクリストをもてなす休憩施設としての機能を充実させることにより、団体ツーリストの受入も可能となり、さらなる集客力の向上を図る。

## 【デジタル社会の形成への寄与】

### 内容①

道の駅の全店舗を対象として顧客情報（CRM）や売上情報（POSレジ）を一元管理するクラウド型システムを導入し、売上報告を待たずに、いつでもどこからでもリアルタイムでの販売データの共有や売上分析を可能とする。

### 理由①

売れ筋商品や需要の変化等を素早く把握することを可能とし、各店舗へ集約した情報を分析し、商品の入れ替え、商品陳列、商品の発注数等を適切に対応することで道の駅の魅力向上に寄与する。また、セルフレジにより経理面での省力化、省人化を図り、地域通貨moricaと連携して、買い物や飲食時のキャッシュレス化を推進し、消費者の利便性に貢献する。

### 内容②

AIによる音声データの自動翻訳機能を持つ大型デジタルサイネージを設置し、地域住民やインバウンドを含む観光客に対して地域情報や観光情報、道路情報を提供する。

### 理由②

インバウンドにも対応する、AIによる自動翻訳及び音声データ分析可能なデジタルサイネージを設置する。あらゆる観光客の情報収集やコミュニケーションの壁を取り除き、地域情報をはじめ交通、飲食店、特産品、体験、イベントなどの情報を効果的かつタイムリーに提供することにより、町内各地をより深く探求することに繋がり、多様な活動や交流を促すとともに、魅力ある道の駅及び観光エリアの形成に寄与する。

### 内容③

特別名勝「三段峡」を中心とした自然資源のVR映像コンテンツを用いたデジタル展示を整備し、観光地の魅力向上や来場者の理解促進を図る。

### 理由③

多言語対応のVR映像コンテンツを展示することにより、観光体験を補完する手段として、観光地の疑似体験を通して、より多くの観光客へ現地の雰囲気や魅力を伝え、実際に観光地へ行く前に期待を高めることに寄与し、現地を訪れる動機付けを促す。疑似体験の手軽さから、これまで興味のなかった来訪客が現地を訪れる効果も期待され、観光エリアとしての魅力増進に貢献する。

⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4-2の【数値目標】に同じ。

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証時期】

毎年度 9 月

【検証方法】

町内部における一次評価、「まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」における二次評価を行い、検証・見直しを実施する。

【外部組織の参画者】

まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議員： 地域団体、経済団体、学識経験者、安芸太田町PTA連合会等

【検証結果の公表の方法】

町広報または町ホームページにて公表

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3016】

総事業費 1,097,349 千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から 2029 年 3 月 31 日 まで

⑨ その他必要な事項

特になし。

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

### 5-3-2 支援措置によらない独自の取組

#### (1) 地域商社あきおおた推進事業

##### ア 事業概要

2017年に設立した一般社団法人地域商社あきおおたが、観光庁の「観光地域づくり法人（登録DMO）」として、町の稼ぐ力の向上のため、町内事業者を巻き込み地域資源を消費者とつなげる取組みを推進する。

##### イ 事業実施主体

一般社団法人地域商社あきおおた

##### ウ 事業実施期間

2024年4月1日から2029年3月31日まで

#### (2) 該当なし。

##### ア 事業概要

##### イ 事業実施主体

##### ウ 事業実施期間

年 月 日から 年 月 日まで

#### (3) 該当なし。

##### ア 事業概要

##### イ 事業実施主体

##### ウ 事業実施期間

年 月 日から 年 月 日まで

## 6 計画期間

地域再生計画の認定の日から 2029年3月31日まで

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

### 7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

### 7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2に掲げる目標について、5-2の⑥の【検証時期】に7-1に掲げる評価の手法により行う。

### 7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。